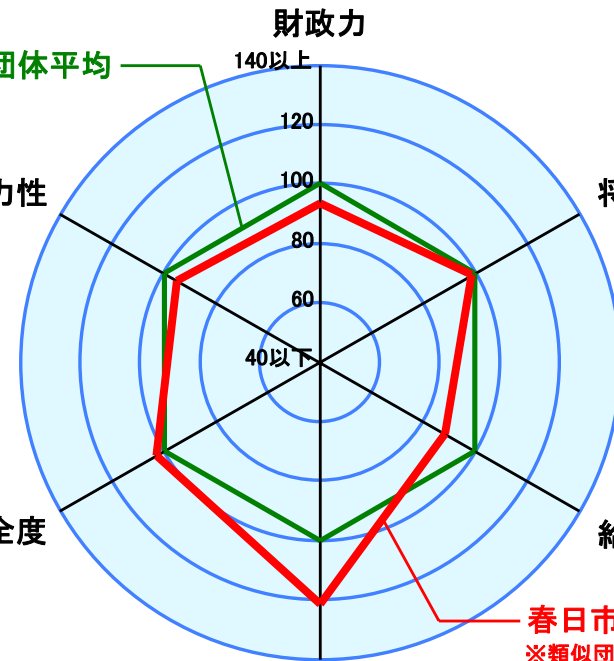


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

福岡県 春日市

人口	109,249 人(H17.3.31現在)
面積	14.15 km ²
歳入総額	27,919,079 千円
歳出総額	27,258,447 千円
実質収支	489,479 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

○財政力指数

当市には大型事業所も少なく、個人市民税に依存している中、税徴収率は96～99%と近年安定しているものの、長引く景気低迷による減収により、指数は類似平均を下回っている。投資的経費を抑制する歳出の見直しを図るとともに、平成17年度の機構改革で新たに納税課を創設し、収税による歳入の確保に取り組んでいる。

○経常収支比率

扶助費及び国保や老人特別会計への繰出金の増加によって義務的経費の割合が多くなり、93.5%と危機的状況にある。市税の落ち込み及び地方交付税の削減により、歳入の大幅な減収見込みの中、扶助費等は増加の傾向にあるため、平成16年度から18年度までの削減重点目標(人件費伸び率0%、物件費3%減、補助費等0.5%減)をたて、事務事業の見直しを行いながら歳出の抑制に努めている。

○起債制限比率

類似内で見ればほぼ平均的数値にあるが、平成16年度から17年度にかけての白水小学校建設のための借入により、後年度の公債費の増が予測される。今後も、市内中央に位置する幹線道路整備事業や西鉄天神大牟田線連続立体交差事業などに伴う、比較的大規模な市債借入が必要となる。このため、平成16年度は14,000千円の繰上償還(利子1,027千円減)、平成17年度にも繰上償還547,400千円の借換え(利子17,682千円減)を行った。また、平成18年度予算編成方針において、平成18年度から5年間で10億円の繰上償還の目標を立て、公債費の削減を図る。

○人口1人当たり地方債現在高

市庁舎、ふれあい文化センター、歴史資料館、小中学校大規模改修及び道路整備の大規模な施設整備事業が過去において行われてきた中で、この指標ではほぼ類似平均値となっている。これは、地方交付税に算入されない、いわゆる「ただの借金」を極力抑えながら、厳しい財政の限られた財源の中で、繰上償還や借換えを率先して行い、公債費の負担軽減に努めているためである。予算に占める公債費の割合は15%程度となっている。

○ラスパイレス指数

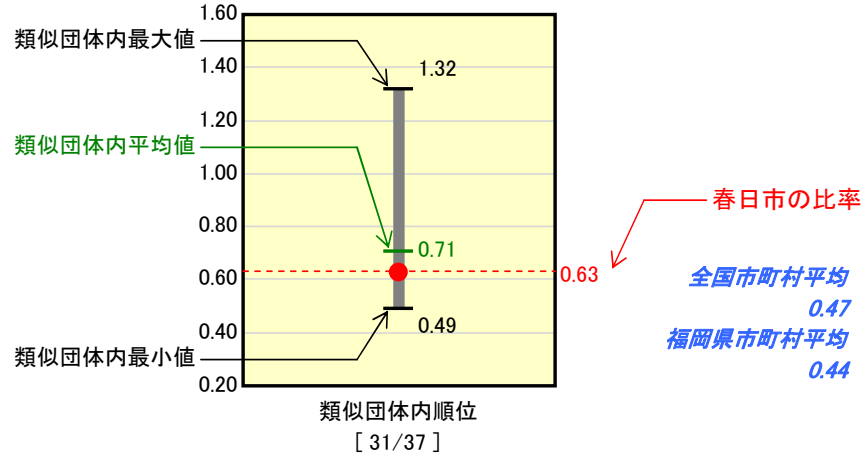
類似の中にあっては高い指数であるが、国公に準じた給与改定を行うなど、人件費の抑制に努めている。勤奨退職者や定年退職者の補充については一部欠員不補充とし、最小限の採用にとどめている。

○人口1,000人当たり職員数

現在のところ数値の低さは全国でも最上位にある。今後、平成19年度から5年間程度団塊の世代の定年退職者が多く出るため、定員管理の十分な配慮が必要となる。民間委託や広域行政などを推進しながら、市民サービスの低下を招かないことが必要である。また、平成17年10月に開所したまちづくり支援センターなどのNPO団体等との連携協働も今後検討していかなければならない。

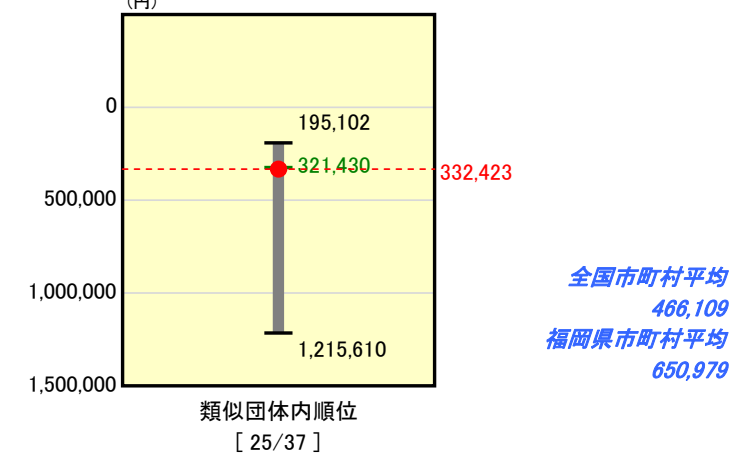
財政力

財政力指数 **[0.63]**



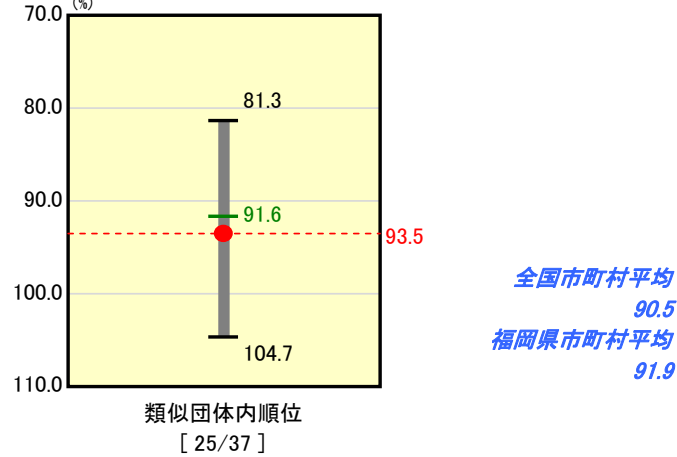
将来負担の健全度

人口1人当たり地方債現在高 **[332,423円]**



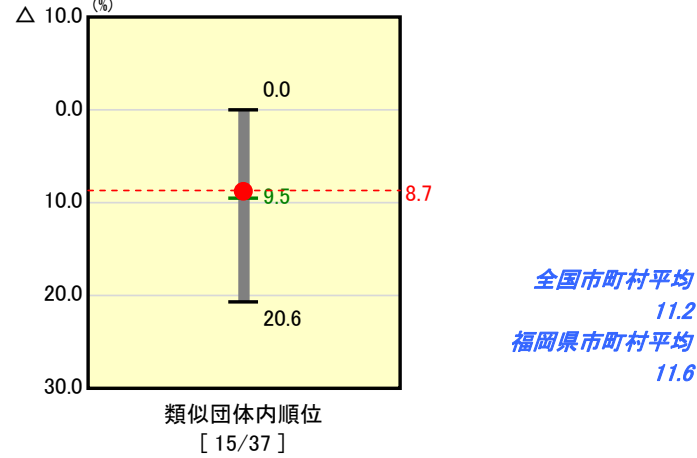
財政構造の弾力性

経常収支比率 **[93.5%]**



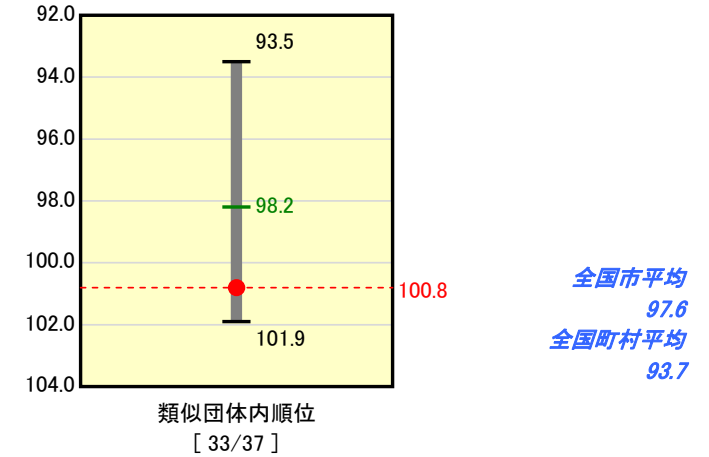
公債費負担の健全度

起債制限比率 **[8.7%]**



給与水準の適正度(国との比較)

ラスパイレス指数 **[100.8]**



定員管理の適正度

人口1,000人当たり職員数 **[3.82人]**

